

	必要か？」という表現が欲しい気がする。目標があり、その目標を克服・達成するための手段として環境学習が存在するのだ、という構成にしてみてもどうか？つっこみが弱い気がする。
事務局	ご意見を参考に訂正する。
上野委員	さきほどの青木先生のご意見を踏まえ、確認しておきたいことがある。現在、学校教育においては、すべて「環境教育」という表現で統一されているが、この「環境教育」という表現、これからもこのままでいいのか？
事務局	問題ない。
上野委員	「学社融合の学校」との表現があるが、表現として適切ではない。正確には、「学社融合を図ろうとしている学校」、「学社融合に取り組もうとしている学校」である。
事務局	誤解のないよう、訂正する。
青木委員	2章では、各主体のアンケート調査の結果について述べられているが、各主体の回答分析だけでなく、全体を通した回答分析、考察も必要なのではないか？全体からは、「地球環境問題に対する関心が低く、それに対する取組が少ない」という傾向が見出されると思われるので、そういった部分に触れてもいいのではないかと？ 市民の項において、「若い世代に対する環境学習の必要性が高い」との表現があるが、大人に対する教育も重要であるということも忘れてはいけない。ここにはその視点が見受けられない。
事務局	ご指摘をふまえて、再度、検討していきたい。
上野委員	学校からのアンケートの回答率が低いようだが、提出について催促はしなかったのか？催促があれば、もっと回答率は高まったはずだが・・・。
事務局	今回のアンケートは無記名方式であるため、催促はできなかった。
青木委員	文化課主催の「自然観察会」の内容とはどのようなものか？宇都宮美術館で開催しているものでは？であるとすれば、ここには2回開催とあるが、平成13年度には4～5回の開催があったはずである。
事務局	再確認する。
陣内会長	13ページの実施事業の一覧表については、私からも感想を言わせてほしい。この表には、各事業の参加者の延べ人数、事業の件数等が記載されているが、問われるのはその事業の内容、質である。この表からは参加者に対して、どのような効果があったのかが分からない。数量的なデータを示すことも必要ではあるが、無駄な事業を数多くやっても意味がない。後の段落での施策の提案にもつながってくる部分であり、より質的なところを吟味する必要があるのではないかと。
谷田部委員	ここの表に並んだ事業について、「一過性のもの」と「継続的なもの」との割合はどれくらいか？
事務局	全ての事業について、一過性のものか、継続的なものかという把握はできていない。
陣内会長	連続的なもの（しっかりプログラムを組んで展開されるもの）と単発のもの（イベント的なもの）を分けて、内容を分析し直した方がいいのでは？その結果を提示していただいた方が、第3回の懇談会の場においても議論し易いのではないかと？今回のような表現では、その質までは把握できない。次回の会合の時に資料として作成いただくとありがたい。
事務局	ご意見を参考に、再度、整理していきたい。

環境学習の目標と主体別の役割】

青木委員	<p>参考資料1 左の欄、「国内外における環境学習の基本的な考え方の整理」の項目については、11月中旬に日本政府より、「国連持続可能な開発のための教育の10年」という提案がなされていて、これが一番新しいものであると思われるので掲載願いたい。「協働」という言葉が使われているが、その具体的な姿が見えてこない。どのようなパートナーシップ理念を行政としてイメージしているのか？</p> <p>参考資料3のまとめ方についてであるが、それぞれの主体において、どれが一番の主要な取組になるかということが伝わってこない。取組項目が数多く並んではいるが、果たしてすべて実行できるのか、疑問に感じる。</p> <p>参考資料3 「家庭」の項目中にも子どもの記載があり、「地域社会」の項目の中にも子どもに関するものの記載がある。『実際に誰がやるのか？』という部分をもっと整理する必要があるのではないか。例えば、1ページのア、「自然の中に出かけ、五感で自然とふれあうことにより、自然に対する感性や生命の大切さに対する感性を育み、環境への興味や理解を深めていく。」という表現ではイメージがわいてこない。表現を多少切り分けることが必要なのでは、と思う。</p> <p>参考資料3 「学校等」の項目についてであるが、市としてどのようなバックアップをするつもりなのか明確にしてほしい。金銭面でもそうであるし、人的な面でもそうである。プログラムを提供するというのもその1つとなるはずである。</p> <p>参考資料3 「行政」の項目中のク、「各主体の環境学習に対して、情報の提供、人材の派遣、学習教材・資機材の提供などの支援を行なう。」についてであるが、ここには一番大切な「資金の提供」がぬけている。支援の側面として、資金の提供をするということはとても重要なポイントになるはずである。</p>
陣内会長	<p>「協働」という概念についてであるが、協働をやろうとするとお金がかかる。現状では活動グループのポケットマネーで賄われているが、それには無理があり、いつか続かなくなる。「無理をしない形での協働」というものはどのようなものか、ということをごどこかで述べておく必要があるのではないか。</p> <p>参考資料1 右上「環境学習の目標」の欄に、「参加・連携」という表現があるが、正しくは「参画・連携」である。</p> <p>子どもに対する教育ももちろん大切であるが、今、一番しなくてはならないのは大人に対しての教育である。大人がしっかりすれば、おのずと子どももしっかりするはず。その観点をもう少し明確にしてみてもどうか。</p>
神宮副会長	<p>第3章だけのことでなく、全体を通してのことになるが、宇都宮市の環境の特徴とも言える「農業」について、「自然」という言葉とひとくくりで片付けてしまっているのであろうか。農業だけを謳うというのも難しいとは思いますが、もう少し具体的な表現があるといいなと思う。</p>
事務局	<p>ご意見を参考にしていきたい。</p>
神宮副会長	<p>先ほど、「資金の援助」についてのご意見があったが、これはあくまで「指針」であって、そこまで盛り込む必要が果たしてあるのだろうか？</p>
青木委員	<p>盛り込むべき。県の環境学習推進指針でも盛り込まれている。</p>
谷田部委員	<p>参考資料3 「事業者」の役割についてであるが、事業者はやはり業績を第一に考えるものである。資料4ページ目、「環境への取組が業績を左右する要素になっている。」というポイントから、「環境学習に取り組まなければならない。」につながる説得力が弱い気がする。市内の事業者の大多数を占める零細企業へもPRできるような表現をお願いしたい。</p>

高橋委員	アンケートの結果から、環境に対する取組は事業者ごとに大きく差があり、環境意識が千差万別であると考えられる。やはり、意識の改革が重要になってくるであろう。
陣内会長	現在、商工会議所では、環境保全活動に積極的に取り組む市内の中小・零細企業に「環境にやさしい優良企業認定証」を交付することを検討されているとのこと。ここでは、各企業の環境への様々な取組を具体的に整理していると聞いているので、この指針の中でも是非触れてほしいと思う。
事務局	ご意見を参考に、十分検討したい。
石原委員	大人の意識を高めるための支援をどうしていくか、それが日常生活の中で子どもが育つ土壌を拓く上では非常に重要である。実際、保育園・幼稚園の現場では、子どもは日常生活でたくさんの実体験を積んでいる。だが、この体験が環境学習は別のものだ、とされると新たな課題が与えられたこととなり、現場の教師は大変になる。現にやっていること、取り組んでいることが環境学習につながるのだという整理作業だけを研修等を通して実践すれば、現場でも混乱なく今までの積み重ねをさらに活用していいのでは、と思う。
陣内会長	石原委員のおっしゃる通り。実はこれが環境学習だったのだ、というものが現場ではたくさん実践されている。そういうものを整理して提示してあげれば、教育現場では受け入れやすいと思う。
大越委員	私も石原委員の意見に賛成である。子どもたちが1年間毎日、大人の捨てたタバコの吸殻を掃除した、という話を聞いた。これでは、大人と子どもが逆である。やはり、大人の意識改革が必要なのでは、と私も思う。ただ、その手法として、新しいことがたくさん指針の中に盛り込まれると、教育現場ではパニックに陥ったり、パニックしてしまったりする。これまでに実践してきたことの再整理の作業、言い換えればそれらを系統づける作業を進めてほしいと思う。
上野委員	参考資料1～3はあくまで参考と考えてさしつかえないか？であるなら、それ以外のA4版の書類が最終的に指針の原稿となる訳だから、もう一度、文脈等の見直し・再確認をお願いしたい。
事務局	ご意見を参考に、再度、整理していきたい。
上野委員	先に県で策定した指針と同じ形にすることが望ましいと思うが、今回、提示のあった本指針における環境学習の目標3つについては、言い切りの形がすべて、「～こと」となっている。目標らしい言い切りにはできないか？
事務局	最終的には、「～します」というような、目標だとわかる表現に切り替えていきたい。
上野委員	各主体別の環境学習を整理しているページにおいては、 にア、イが続き、 にウ、エが続く、というように、カタカナ符号については、通しで付されている。違和感のないような形をお願いしたい。
事務局	今後の作業で見直しする。
陣内会長	1ページ、環境学習の必要性の部分、もしくはその前段で理念的なことを掲げることがあればそこでも構わないが、「持続可能性」という言葉については是非謳っていただきたいと思う。自分たちの生活、暮らし、すべてのものにおける持続可能性をどのように実現していくのか、ということを実践として触れていただきたい。本日の議事はこれで終了ということで、後は事務局でお願いします。
事務局	以上をもちまして「第2回宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会」を閉会いたします。ありがとうございました。
閉会：午後3時20分	